

平成29年度後期 学群教育改善計画

| | |
|----------|-------|
| 学群(学部)名 | 基盤教育群 |
| 学群(学部)長名 | 川村 保 |

| | | | | | |
|--|--|----|-----------------------------------|----|---|
| <p>1ー(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。</p> | | | | | |
| ① | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課題</td> <td>【継続】事前・事後の学習が不十分である。</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>・事前・事後学習の状況については科目ごとに差があり、基盤教育として開講している科目全般のレベルアップが必要である。</td> </tr> </table> | 課題 | 【継続】事前・事後の学習が不十分である。 | 理由 | ・事前・事後学習の状況については科目ごとに差があり、基盤教育として開講している科目全般のレベルアップが必要である。 |
| 課題 | 【継続】事前・事後の学習が不十分である。 | | | | |
| 理由 | ・事前・事後学習の状況については科目ごとに差があり、基盤教育として開講している科目全般のレベルアップが必要である。 | | | | |
| ② | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課題</td> <td>授業の展開上の事情に一層の配慮を払った時間割編成を行う必要がある。</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>・冬季にはしばしばバスの遅延のために1時間目の必修科目の授業に遅刻する学生が生じる。 ・他の関連科目のつながりを考慮した時間割上の科目の配置が望まれる。</td> </tr> </table> | 課題 | 授業の展開上の事情に一層の配慮を払った時間割編成を行う必要がある。 | 理由 | ・冬季にはしばしばバスの遅延のために1時間目の必修科目の授業に遅刻する学生が生じる。 ・他の関連科目のつながりを考慮した時間割上の科目の配置が望まれる。 |
| 課題 | 授業の展開上の事情に一層の配慮を払った時間割編成を行う必要がある。 | | | | |
| 理由 | ・冬季にはしばしばバスの遅延のために1時間目の必修科目の授業に遅刻する学生が生じる。 ・他の関連科目のつながりを考慮した時間割上の科目の配置が望まれる。 | | | | |
| ③ | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課題</td> <td>【継続】学習環境が十分に整備されていない。</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>・体育館の施設・設備のメンテナンスが不十分であり、履修者の事故につながりかねないおそれがある。 ・アクティブラーニングの実施に支障がある教室がある。</td> </tr> </table> | 課題 | 【継続】学習環境が十分に整備されていない。 | 理由 | ・体育館の施設・設備のメンテナンスが不十分であり、履修者の事故につながりかねないおそれがある。 ・アクティブラーニングの実施に支障がある教室がある。 |
| 課題 | 【継続】学習環境が十分に整備されていない。 | | | | |
| 理由 | ・体育館の施設・設備のメンテナンスが不十分であり、履修者の事故につながりかねないおそれがある。 ・アクティブラーニングの実施に支障がある教室がある。 | | | | |
| <p>1ー(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。</p> | | | | | |
| ① | <ul style="list-style-type: none"> ・マイクロFDや教員会議の場を利用して、事前・事後学習ができていない科目の担当者から、そのノウハウを教示してもらい、共有を図る。 ・事前・事後学習の際にも役立つと思われる Moodle1 や Moca などのソフトウェアの習熟を促す。 | | | | |
| ② | <ul style="list-style-type: none"> ・遠距離通学の学生など公共交通機関の遅れの影響を受ける学生がいることを考慮し、深刻な影響が生じると懸念される科目の時間割配置を変えられるか検討し、可能であれば変更する。 ・時間割の上で解決できる課題については、時間割編成の段階で調整し、解決を図る。 ・履修年次等のカリキュラム編成に関わる課題については、現行カリキュラムの完成後のカリキュラム変更を視野に入れて、改善のための準備を進める。 | | | | |
| ③ | <ul style="list-style-type: none"> ・体育館のメンテナンスについては体育系の科目を担当している教員より継続的に事務局へ依頼してきた経緯があるが、基盤教育群としても事務局への働きかけを行う。 ・アクティブラーニングの実施に適した教室と適さない教室を分類すると共に、授業でのアクティブラーニング環境の必要性を把握して、効率的な教室の割り振りを時間割編成に反映させるようにする。 | | | | |

| | |
|--|--|
| <p>2ー(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・反転授業形式で授業を実施し、事前学習をしなければ授業についてこれないようにして、事前学習を促した。 ・複数の教員が担当する科目において担当教員の違いによる差が生じないように、定期的なミーティング等で進捗状況の管理を行なった。 | |
| <p>2ー(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・教員会議、科目分野ごとのミーティング、マイクロFDなどの場でこれらの取り組みについて紹介し、基盤教育群としての情報共有を図る。 | |

平成29年度後期 学群教育改善計画

| | |
|----------|------|
| 学群(学部)名 | 看護学群 |
| 学群(学部)長名 | 原 玲子 |

| | |
|--|--|
| <p>1ー(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。</p> | |
| ① | <p>課題 技術習得を主とする科目等は、事前学修、事後学修を行わないと授業に臨めないことから、ラボの開放延長希望があるほど、事前・事後学修が十分行われている。しかし、知識を習得する科目等では、事前・事後学修時間が不足している傾向が強く、事前・事後学修を促すための効果的な方法の検討が必要である</p> <p>理由 授業内容を理解し、知識を習得していく過程で、事前・事後学修は重要な位置づけと考える。</p> |
| ② | <p>課題 事前学修～授業～事後学修～試験等の一連の流れの中で、評価を示している科目は見あたらなかった。また、オムニバス科目で、領域間の得点差が大きい学生もいる等、評価方法の検討が必要である。</p> <p>理由 1つの科目として、事前学修～授業～事後学修～試験等の一連の流れの中で、学生への評価の示し方や評価の方法は、学生が授業内容を理解の深める上で重要と考える。</p> |
| ③ | <p>課題 スクリーンが小さい、映像が鮮明に映らない、わかりやすい資料の作成等が、継続した課題となっているが、新カリの学生から、PC必携となっていることから、それに伴う効果的な授業方法の検討が必要である。</p> <p>理由 1科目が電子書籍を導入している。電子書籍の導入や写真の鮮明な映像の提供など、学生の理解を促すわかりやすい資料の作成等の検討においては、新カリの学生より、PC必携であることを視点に置くことが必要と考える。</p> |
| <p>1ー(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。</p> | |
| ① | <ul style="list-style-type: none"> 事前・事後学修については、以前より課題であったが、今回は「小テスト」「レポート」「課題の提示」等の工夫がされていた。各科目において、事前・事後学修をどのように行っているのか、その方法をどのように評価しているのか等の情報を共有し、FD等を通して、効果的な方策を検討する。 |
| ② | <ul style="list-style-type: none"> 以前より課題となっている学習の到達状況を評価するための基準や方法については、一部の導入を行ったが、各科目に反映できるように、FD等を通して、ルーブリック評価の規準作成に取り組む。 |
| ③ | <ul style="list-style-type: none"> 「わかりやすい講義資料の作成」や「スクリーンが小さい」「スクリーン画像が鮮明に映らない」等の従来の課題である、commonsの整備により解消される側面もあると思われるが、新カリの学生は、PC必携であることを念頭に、PCを活用することで、より効果的授業方法、効果的な資料作成についてFD等を通して検討する。 |

| | |
|---|--|
| <p>2ー(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業のはじめに、「小テスト」を行い、そのことが、事後学修の動機付けになり、事前学修にも反映されていた。 ポートフォリオの導入により、意識して学修する学生がこれまでより増加していた。 事例をグループで考察するアクティブラーニングの導入により、学生が能動的に考え、質問も多くなる等、双方向性の授業の展開となり効果的であった。 | |
| <p>2ー(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員会議で紹介し、情報を共有する。 看護学群のFDを通して、事前・事後学修時間の確保を促進する方法について、各科目単位、科目の連動における方策等、講義科目における効果的なアクティブラーニングを検討する。 | |

平成29年度後期 学群教育改善計画

| | |
|----------|--------|
| 学群(学部)名 | 事業構想学群 |
| 学群(学部)長名 | 風見正三 |

| | | | | | |
|--|--|--------|---------------------------------------|--------|---|
| <p>1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。</p> | | | | | |
| ① | <table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">課 題</td> <td>授業計画や事前・事後の学習方法の明確化を行う必要がある。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理 由</td> <td>参考文献等の取り組みが効果的に運用されておらず、授業計画における具体化が必要。</td> </tr> </table> | 課 題 | 授業計画や事前・事後の学習方法の明確化を行う必要がある。 | 理 由 | 参考文献等の取り組みが効果的に運用されておらず、授業計画における具体化が必要。 |
| 課 題 | 授業計画や事前・事後の学習方法の明確化を行う必要がある。 | | | | |
| 理 由 | 参考文献等の取り組みが効果的に運用されておらず、授業計画における具体化が必要。 | | | | |
| ② | <table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">課 題</td> <td>学類の特性を踏まえた履修モデルを明確化する必要である。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理 由</td> <td>学類の科目特性に基づく科目選択や授業計画を実施できるガイドラインが必要。</td> </tr> </table> | 課 題 | 学類の特性を踏まえた履修モデルを明確化する必要である。 | 理 由 | 学類の科目特性に基づく科目選択や授業計画を実施できるガイドラインが必要。 |
| 課 題 | 学類の特性を踏まえた履修モデルを明確化する必要である。 | | | | |
| 理 由 | 学類の科目特性に基づく科目選択や授業計画を実施できるガイドラインが必要。 | | | | |
| ③ | <table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">課 題</td> <td>戦略的な授業運営の基礎となる効果的な学習支援システムの活用度を向上させる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">理 由</td> <td>Moodle 等の効果的な学習支援システム実践が必要。</td> </tr> </table> | 課 題 | 戦略的な授業運営の基礎となる効果的な学習支援システムの活用度を向上させる。 | 理 由 | Moodle 等の効果的な学習支援システム実践が必要。 |
| 課 題 | 戦略的な授業運営の基礎となる効果的な学習支援システムの活用度を向上させる。 | | | | |
| 理 由 | Moodle 等の効果的な学習支援システム実践が必要。 | | | | |
| <p>1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。</p> | | | | | |
| ① | 講義の事前事後の学習の必要性や伝達方法について、SSC 学群 WG で分析を行い、教員間で情報共有し、教員連絡会議で実践を進めていく。 | | | | |
| ③ | 学類の定例会議にて、科目連携や履修モデルを検討し、学類ごとのガイドライン等を構築していく。その経過については、ミクロレベルのFD で共有し、それらの情報を学類のホームページやオープンキャンパス等の広報活動に反映させていく。 | | | | |
| ③ | SSC 学群 WG が主体となり、今後必要となる授業管理メソッドを調査・分析し、その導入や実用に向けた教職員の情報共有を進めていく。 | | | | |

| | |
|--|--|
| <p>2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オムニバス形式については、全体性が把握できるようにガイダンスを強化していく。 ・事前学習の活性化につながるように、資料の事前配布を進めていく。 ・授業時間外での学習が活発になるような適切な課題設定を進めていく。 | |
| <p>2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。</p> <p>教員連絡会議にて授業改善計画の具体的な方法について情報共有を行うとともに、 commons の利用を含めたアクティブラーニングの導入効果について分析を行い、各学類の情報共有を進めていく。また、来年度から学類でのゼミ活動も始まることから、学類における複数教員指導体制の検討も進め、学生の学習達成度のモニタリングや情報共有を進めていく。</p> | |

平成29年度後期 学群教育改善計画

| | |
|----------|-------|
| 学群(学部)名 | 食産業学群 |
| 学群(学部)長名 | 西川正純 |

| | | | | | |
|---|--|----|---|----|--|
| <p>1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群(学部)で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、昨年度から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。</p> | | | | | |
| ① | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%;">課題</td> <td>継続：授業評価の回答率が40～60%と前年よりは改善してきているものの、依然10%代と低い科目も見受けられる。継続的な改善が必要である。</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>最終授業の後半10分程度時間を取って入力するよう指導している教員が多いが、実施に至っていないことに起因する。コンピュータラボに出向く学生が少ない。スマートフォンでの入力も可能なことから入力方法等の周知が必要と考える。</td> </tr> </table> | 課題 | 継続：授業評価の回答率が40～60%と前年よりは改善してきているものの、依然10%代と低い科目も見受けられる。継続的な改善が必要である。 | 理由 | 最終授業の後半10分程度時間を取って入力するよう指導している教員が多いが、実施に至っていないことに起因する。コンピュータラボに出向く学生が少ない。スマートフォンでの入力も可能なことから入力方法等の周知が必要と考える。 |
| 課題 | 継続：授業評価の回答率が40～60%と前年よりは改善してきているものの、依然10%代と低い科目も見受けられる。継続的な改善が必要である。 | | | | |
| 理由 | 最終授業の後半10分程度時間を取って入力するよう指導している教員が多いが、実施に至っていないことに起因する。コンピュータラボに出向く学生が少ない。スマートフォンでの入力も可能なことから入力方法等の周知が必要と考える。 | | | | |
| ② | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>課題</td> <td>継続：座学講義において、予習・復習を含め、授業時間外の学修時間が前年同様少ない。</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>自発的な授業外学修が望ましいが、予習・復習が必要ないと考えている学生も多いこと、アルバイト等のため時間が取れないことが理由と考えられる。</td> </tr> </table> | 課題 | 継続：座学講義において、予習・復習を含め、授業時間外の学修時間が前年同様少ない。 | 理由 | 自発的な授業外学修が望ましいが、予習・復習が必要ないと考えている学生も多いこと、アルバイト等のため時間が取れないことが理由と考えられる。 |
| 課題 | 継続：座学講義において、予習・復習を含め、授業時間外の学修時間が前年同様少ない。 | | | | |
| 理由 | 自発的な授業外学修が望ましいが、予習・復習が必要ないと考えている学生も多いこと、アルバイト等のため時間が取れないことが理由と考えられる。 | | | | |
| ③ | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>課題</td> <td>継続：授業評価アンケートでの授業の到達目標度合いで、科目によっては授業の理解度の低い学生が存在しており、改善すべき重点課題であると考えられる。</td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td>②の予習・復習が行えていないことに加えて、基礎科目での学修が十分出来ておらず、それに繋がる応用科目の理解度がより低くなっていると考えられる。</td> </tr> </table> | 課題 | 継続：授業評価アンケートでの授業の到達目標度合いで、科目によっては授業の理解度の低い学生が存在しており、改善すべき重点課題であると考えられる。 | 理由 | ②の予習・復習が行えていないことに加えて、基礎科目での学修が十分出来ておらず、それに繋がる応用科目の理解度がより低くなっていると考えられる。 |
| 課題 | 継続：授業評価アンケートでの授業の到達目標度合いで、科目によっては授業の理解度の低い学生が存在しており、改善すべき重点課題であると考えられる。 | | | | |
| 理由 | ②の予習・復習が行えていないことに加えて、基礎科目での学修が十分出来ておらず、それに繋がる応用科目の理解度がより低くなっていると考えられる。 | | | | |
| <p>1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。</p> | | | | | |
| ① | <p>本課題については、7月の教員会議・教授会、学類(学科)会議で情報の共有化を図ると共に、授業時間内(14回目、15回目)に時間を取り、回答手順の説明、さらにコンピュータラボではなく、講義室において自身のスマートフォンやパソコンで回答するよう学生に指導して頂く。</p> | | | | |
| ② | <p>本課題については、7月の教員会議・教授会、学類(学科)会議で情報の共有化を図る。対策としては、グループワークやLTD(Learning Through Discussion)課題を事前に取り組ませること、さらに宿題や小レポート、小テスト、練習問題等の実施をお願いすることで、授業外学修の習慣付けを実現する。</p> | | | | |
| ③ | <p>本課題については、7月の教員会議・教授会、学類(学科)会議で情報の共有化を図る。対策としては、昨年前期に引き続き、双方向型授業やアクティブラーニング授業の一環として、グループワーク、LTD(Learning Through Discussion)、ピアサポートの実施・活用をお願いする。さらに、学群・研究科教務委員会を中心に、関連科目間の講義内容の一貫性・連続性の確認と内容の見直しにより学修効率の向上を実現する。</p> | | | | |

| | |
|---|--|
| <p>2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。</p> | |
| <p>「ケースメソッドの手法により、学生が主体的に考え、発表する、議論することに取り組んだ」、「コメントカードに記された質問には必ず答えることとし、さらに、それが授業のみならず実生活でどう活用できか等を具体的な事例を示した」、「生産・加工現場等のビデオを織り交ぜながら解説した」、「授業の終わりに学びの確認のための小テストを行い、重要ポイントの理解を深めると共に、理解していない点を次回の授業で解説・補足説明した」、「実験マニュアルについて、実験開始前に十分に説明するとともに、学生グループ毎に内容を教習する時間を作った」、「練習問題について、学生間でディスカッションしながら回答する時間を設けた」など</p> | |
| <p>2-(2). 上記の事例を学群(学部)の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。</p> | |
| <p>昨年に引き続き、双方向型授業、アクティブラーニング授業、授業外学修の定着に向けた講習会を学群・研究科の教務委員会で年度内にスケジュール化して実現する。</p> | |